



富士森

東京都立富士森高等学校同窓会報

東京都立富士森高等学校
同窓会報 (No.7)

発行日 平成14年6月1日

編集 富士森高等学校同窓会

住所 〒193-0894

八王子市長房町420番地
都立富士森高等学校内

TEL 0426-61-0444



天神町時代の校舎



校内に立つ校歌碑



50周年記念事業における航空写真

来賓迎え清々と開催

母校創立六十周年
定時制五十五周年
を祝う会

今号の目次

- 1ページ 総会のご案内
- 2・3ページ 13年度事業報告・決算
- 4・5ページ 周年行事特集
- 14年度事業計画・予算
- 6・7ページ OB通信
- 先生 お元気ですか
- 8ページ クラス会だより

今年度の総会

7月14日(日) 午後2時から母校で開催
懐かしい先輩、後輩に会いたい!あの人は今!
クラスメートをお誘いあわせて、ぜひご参加下さい。



21世紀のスタートとなる平成13年(2001)。この年、母校は創立60周年を迎えました。同窓会は、学校、PTAなどとともに、周年行事に向けた様々な事業を行いました。ここで、この1年間の同窓会活動の一端を報告します。

平成十三年度事業報告

- ◆ **入学式** (4月9日) 正副会長が来賓として出席。終了後に保護者へ同窓会活動を説明。
- ◆ **歩行会** (5月11日) 役員数名が参加。
- ◆ **学年委員との懇談会** (8月25日) 周年行事への対応と役員会増強

を目的に、過去10年間の学年委員(90名)との懇談会を開催。三十数名から日程が合わなく当日参加ができないが、協力する旨の返事があり、最終的に2名が参加。意見交換を行う。

◆ **文化祭** (9月15・16日) 同窓会ホットコーナーを設置。コーヒーや清涼飲料水・茶菓子等を用意し、接待。七宝教室(講師「小石京子会員」)を開催し、携帯ストラップを製作。参加費(2万5千円)は、昨年に引き続き「伊豆諸島噴火地震救援募金」にPTAとともに寄贈。その他、歴代制服や卒業アルバム、校舎・行事写真等、文芸部作品集等の展示。特に今年は六十周年とのことで、市立高女時代の徽章(きししょう)を大切に保存されていた小泉小夜子会員よりお借りして展示したほか、学校行事等のビデオを放映。

◆ **総会** (9月22日) 母校多目的ホールで開催。出席者は、歴代校長ほか来賓を含め38名。平成12年度決算・事業報告、平成13年度予算・事業計画、平成13年度役員承認が行われ、総会を終了。その後、懇親会となり、井上秀雄会員(平成元年卒)がメ

ンバーとなっている「ブルースハモニカ」による演奏がアトラクションとして行われ、次回の再会を期して散会。

◆ **創立六十周年を祝う会** (11月17日) 詳細は5・6面を参照。

◆ **PTA役員との意見交換会** (2月2日) 同窓会の活動の現状と将来の事業計画について、役員十数名の方と意見交換、貴重な意見を拝聴。

◆ **卒業式** (3月9日) 正副会長が出席。終了後に会長から皆勤賞受賞者(8名)に記念品を贈呈。その他、卒業生(278名)全員に卒業証書ファイル及び胸を飾るコーサージュを進呈。

◆ **役員会** 定例会として毎月第3土曜日午後2時から母校小会議室で開催。他に臨時会や周年行事打合せ等で参集(27回)。

平成十三年度役員

名誉会長	佐藤 公作 (母校校長)
会長	原 喜久治 (33年卒)
副会長	吉田 米男 (33年卒)
幹事長	水越 幸雄 (43年卒)
幹事	福本 雄吉 (42年卒)
幹事	菱山 寛治 (44年卒)
幹事	東浦由理夫 (59年卒)
幹事	中川 有子 (42年卒)
会計	長谷川隆司 (41年卒)
会計監査	中田 澄子 (35年卒)

総会参加者の声

- ☆ 入試という選抜で出会った友が、選厝を迎えた今、大切な親友となった。
- ☆ 突然の脳腫瘍という病気を乗り越えて元気になった。皆さんと会えてうれしい。
- ☆ 自宅から4時間もかけて参加したが、出席者があまりに少ないのに驚いた。次回には多くの同級生を誘いたい。
- ☆ 野球部に籍を置いていた。当時は、出ると負けの弱小チームだったが、後輩たちが都大会で活躍しているのを見て、非常にうれしい。新聞を見るのが楽しみ。
- ☆ 大阪に住んでいる。毎年、総会に参加し、その後で同級生と旧交を温めて帰る。
- ☆ 母親に進められて参加した。多くの先輩と話しができて楽しかった。将来は、情報関係のプログラマーになりたい。
- ☆ 浅川の岸边近くで高校生活を送り、大学は湘南の地に通学。今は生まれ故郷で生活している。

平成13年度決算

収入の部

	予算額	決算額	増減額	説 明
前年度繰越金	24,060,686	24,060,686	0	
同窓会費	2,800,000	2,280,000	520,000	@10,000円×228名
総会費	150,000	63,000	87,000	お祝い10,000円 3,000円×15名 1,000円×8名
名簿購入費 賛助還元金		51,000	▲51,000	同窓会員名簿購入還元金
雑収入		4,089	▲4,089	預金利子
合 計	27,010,686	26,458,775	551,911	

支出の部

	予算額	決算額	増減額	説 明	
運 営 費	200,000	126,227	73,773	事務消耗品代、役員会等茶菓子等	
通 信 交 通 費	150,000	111,380	38,620	役員交通費実費 電話 切手 葉書代等	
備 品 費	20,000	29,000	▲9,000	冷蔵庫	
総 会 費	600,000	313,771	286,229	総会懇親会費、アトラクション謝礼等 ※参加者減 ※出欠葉書をやめ、名簿調整のため のお知らせに振込み用紙を同封した ことによる減	
卒業生支援金	270,000	253,248	16,752	卒業証書フォルダー購入代、皆勤賞 記念品代等	
会 報 発 行 費	350,000	199,657	150,343	A4判4ページ×16,000部 ※ページ数半減のため減	
文 化 祭 費	250,000	332,729	▲82,729	会場設営費、七宝教室材料費等	
ク ラ ブ 他 支 援 費	400,000	92,000	308,000	吹奏楽部定期演奏会会場費助成 陸上競技部応援垂れ幕代等 ※具体的な支援方法が未決定のため	
卒業生名簿更新費	250,000	0	250,000	※周年行事名簿作成一括計上のため	
予 備 費	110,000	31,710	78,290	慶弔費（香典・花輪代等）等	
周年行事費	名簿費	1,500,000	1,806,687	▲306,687	同窓会員名簿作成 ※名簿更新を含む
	行事費	2,000,000	1,166,443	833,557	周年行事同窓会負担分
	広報支援費	200,000	159,975	40,025	P T A 広報100号記念誌増刷支援費 ※記念誌に同窓会の活動経過等も記 事掲載を依頼したことによるペー ジ増負担分
合 計	6,300,000	4,622,827	1,677,173		
翌年度繰越		21,835,948			
総 計	27,010,686	26,458,775	551,911		

③ 金融機関のペイオフに備え、繰越金は、1千万円と700万円の定期預金にしてあります。



来賓の挨拶に、真剣に聞き入る生徒たち



講演する高橋清輝会員



挨拶する原会長

吹奏楽部の演奏



ブルースハモニカと津軽三味線の演奏

料理に手を延ばし歓談



思い出を語る
山田かね会員
(昭和20年卒)

八王子に根ざした伝統ある教育施設としての存在と、校舎の大規模改修工事の完成披露、母校への愛着を示す大きな機会として、百合の香ただよふ母校の体育館で「祝う会」が行われました。全校生徒をはじめ、PTAや同窓会員に、近隣小中学校、地域町会、歴代校長、旧教職員等ご来賓の方々を加え1千名を超える参加を得て、つつましくも厳かに開会しました。

佐藤公作学校長の式辞に始まり、原喜久治同窓会長、坂本純一都教育委員会指導主事などの挨拶の後、黒須隆一八王子市長からお祝いのお言葉をいただき、生徒会長の言葉で終了。続いて、立川女子高等学校副校長・高橋清輝会員（昭和36年3月卒）の講演が行われました。

第2部では、母校の歩みをスクリーンで紹介し、続いて、吹奏学部の演奏、合唱部などの先導で全員での校歌斉唱で、感激のうちに終了しました。午後は、大規模改修によって新装となった母校の校内披露を行い、その後、多目的ホールで祝賀会が開催されました。祝賀会では、恒例の鏡開きに始まり、マジックショーやバンド演奏などのアトラクションをはさみ、参列者による歓談に大きな華が咲きました。ここでは、その様子をスナップ写真でお伝えします。誌上でお楽しみ下さい。

平成14年度 事業計画(案)

広報活動の
強化 年一

回の発行だった会報では、同窓会活動の十分な報告がでないとの反省から、今年度からインターネットによる

同窓会ホームページを開設する計画。また、アドレスがないため、総会での承認後にせひ、「富士森高校」で検索を。

役員体制の強化 特に昨年度は、周年行事の準備などもあり、毎月一回の定例役員会のほかに度々集まるものが多くあった。そこで、多くの方々が様々なポジションで会の活動の一端を担えるようにすれば、一人ひとりの役員の負担を減らせるものと考え、多くの会員の協力をお願いしたい。

会員名簿の充実 久しぶりにクラス会や学年会を開きたいので会員の住所が知りたいとの問い合わせが多い。しかし、折角の名簿も情報が古く、居所を探す

お礼とご案内

創立六十周年記念事業の一環として「同窓会名簿」の発刊に際しまして、会員の皆さまから多大なご協力、ご支援を賜りありがとうございました。

また、名簿を求め忘れたという方。残部がありますので、ご希望の方は、葉書に卒業年度・住所・氏名・電話番号を明記して事務局までご送付ください。手続きのご案内をします。名簿は1冊4,480円（送料込み）です。

平成14年度予算(案)

● 収入の部

項目	金額
繰越金	21,835,948
同窓会費	2,800,000
総会費	150,000
雑収入	2,004,000
合計	26,789,948

● 支出の部

項目	金額
運営費	200,000
通信交通費	200,000
備品費	250,000
総会費	350,000
卒業生記念品費	270,000
会報発行費	1,650,000
文化祭費	300,000
クラブ等支援費	100,000
ホームページ費	100,000
予備費	280,000
小計	3,700,000
繰越予定	23,089,948
合計	26,789,948

八王子市長による来賓挨拶



佐藤学校長の式辞

多くのご来任の方々



生徒会長による生徒の言葉

合唱部などによる校歌斉唱



中村京子さん(左/平成4年卒) 早田奈緒子さん(平成12年卒)による第2部の司会



同窓会ホームページ初期画面(予定)



会場遠景

役員交通費実費や食事代一部支給を明文化 会の活動を強化すれば、それだけ出番も増える。市内の役員だけではない。会合のたびに交通費を自己負担しているのは、若い役員は大変。従来、こうした経費の支給が明文化されていなかったことから、会の活動で使用した交通費の実費と長時間の会合等で食事を摂った場合、経費の一部を支給する規定を作成する。

のも大変。昨年は、周年行事に合わせ会員名簿の調整を行ったが、約四分の一が返戻した。その多くは転居先不明。住所表記が変わった、仕事等で転居された場合、必ず事務局までご連絡を。また、不明だった住所が判ったとのことも多い。

OB通信

このページでは、あなたの個人的な情報や活躍を紹介し、皆様からの積極的な情報提供をお待ちしています。投稿の際には近況が判る写真を同封してください。

近況

(昭和四十四年三月卒)

半沢 隆子

かつては大嫌いな国だったイタリアに住み始めて、もう十六年を過ぎようとしています。ミラノの隣県ベルガモ郊外の小さな町です。人口わずか四千ほど、田園地帯。唯一の日本人である私、Takakoは、けっこうなイタリアーナ(イタリア女性)化しています。なぜなら、ほ



んど毎食、手作りのイタめし。今は、ネイティブなイタリア人さえ市販ですませるピッツアやニョッキなども「まかせて!」です。この国の家庭料理を通して執筆活動がスタートしたのは、約八年前。ごくマイナーながら、エッセイストとして本を出版してもらっています。

今年も食のエッセイから始まりました。「イタリア幸福の食卓12か月」(集英社文庫)で、レシビいっばいの一冊です。五月一日には「イタリア式恋愛力で幸せになる」(光文社知恵の森文庫)が出ました。クフフ、この私が恋愛テーマのエッセイなんて…。富士森高校の同級生たちが知ったら、大笑いすることでしょう。

その富士森高校……。昨年の秋、なんと三十年ぶり以上で同窓会に出席しました。「おー、ハンザワ、おまえ、ちっとも変わってないじゃん」とフェロモン不足を指摘されっぱなし。加えて、「ブラジルから参

加の…」などと、マイクで叫ばれる始末。イタリアみたい愉快で楽しいひとときが過ぎ、幹事の人たち、そして母校に感謝しています。(オフィシャル・ホームページ <http://www.confetio.com/takako>)

Amore! Gioia!! Fantasia!!!
今日を元気に、明日はもっともっと...

イタリア発
タカコ・半沢・メロジー
オフィシャルホームページ

TAKAKO'S NEWS
TAKAKO'S レシピ
イタリアガイド

花美へ

(平成四年三月卒)

中野(武井)千津子

こんにちは。平成四年度富士森高校卒業生です。気がつけば、あれからもう十年…。十年一昔とは、よく言ったものですね。自分自身はもち

ろん、その周りも様々に変化し、今の私がいるのだなあと感じました。平成元年度卒業生の姉は、またまた卒業生のご主人を持ち、私の周りは富士森生で囲まれています(笑)。現在は、姉と共に、両親の営む生花店で働きながら、一児の母として子育てに奮闘中です。三歳になる娘は、私の後を継ぎ、立派な看板娘になっています。皆さん、高尾に来たら是非当店「花美」へ(?)。

ハッピー・マイ・ライフ

(昭和五十八年三月卒)

大野木(菊地)敏子

私は今、中一・小五の二人の子とも夫、そして夫の両親と幸せな日々を送っています。近くの川には、鯉・鴨・白鷺などが生息しており、お茶畑に囲まれた自然がいっぱいの生活は、とても心地よいものです。

現在私は、小学校の給食調理員の仕事をしています。この仕事を始めてから、給食を作ることの難しさ、大変さ、楽しさを知りました。調理室の夏は暑く、冬は寒く辛いなど思うこともありましたが、でも、生徒に「いつもおいしい給食をありがとう」と言われると、とても嬉しくて、頑張るって作ろうという力がみなぎって

きます。本当にやりがいのある仕事だと思えます。今では毎日、明るく楽しく仕事をしています。

高校時代のクラブの仲間とは、今でも仲良く付き合っています。特別な友達です。たまに会っても違和感がなく、まるで高校生に戻ったような気持ちになれるのです。そういう友達は、一生の宝として、いつまでも大切にしていきたいな……と、思います。

函館の女ひとに

(昭和四十四年三月卒)

清水(毛塚)晴美

はるるばる来たぜ函館へ〜♪

まさか、本当に来てしまうとは……今でも不思議な思いがします。もうすでに八王子にいた時より、こちらにいる方が長くなりました。

とにかく、函館は食べ物(お寿司をはじめ海の幸など)が美味しいし、



景色も素晴らしい港町なのです。観光名所もいたる所にあるし、異国情緒溢れる建物や坂道があります。そして、何よりも空と山と海が一体化して一望できる場所もあるのです！私は、時々一人で密かに、これ以上の眺めはない。という程の絶景を楽しんでいるのです。フ・フ・フ・フ・ヒ・ミ・ツ……(^^)

そして、わたくし事ですが……。主婦の傍ら、アロマコーディネーターの仕事をしています。植物の香りやハーブそのものを使って心身共に健康で美しく、そして深いリラクゼーションが得られるようにアロマやアロマセラピー(アロマテラピー)を提供しています。今は、まだ対個人の段階ですが、行く行くは、もっと広い世界へと発展させたいと考えています。東京や札幌で研修などを受けて、自分を向上させて行くことが、とても楽しいし、支えにもなっているのです。

どうぞ四四の会(OB会?)の皆様！ 素敵な函館へぜひおいでください！！

先生 お元気ですか

富士森高校の思い出

根岸 潔 (昭和45年3月卒)

高校生時代の私は天文に興味を持ち、明けても暮れても、そのことだけという時期を送っていました。そこで、一期下と二期下の後輩とで「天文と気象」同好会を生徒総会にかけ、設立しました。卒業後の8年目に私は再び富士森に教師として帰ってきました。教師としての富士森時代には、この同好会を部に昇格させました。その当時の活動と言え、おしゃべり中心でしたが、部員がすばらしく、顧問は何もしてないのに毎年文化祭では何かしらの賞をいただいていた。この当時の部員は、今日でも年に何回かの会合を開き、顧問の私も都合のつく限り参加させていただいています。

富士森からの異動後も、赴任した高校で天文部の顧問になったり、天文部を創立したりして、夏季合宿では生徒と一緒に寝食を共にし、活動をしてきました。そんな彼らも成人し、社会で活躍していますが、富士森高校OBと同様、年に数度は一緒に活動しています。

このように高校生時代に星に興味を持ち、同好会を作ったことが、今日まで私の活動の中核をなしているといった観があります。今日仕事に追われる毎日を過ごしていますが、暇ができたなら自分の原点に戻り、星を追う日々を過ごしたいと考えています。



クラス会だより

還暦を迎えて

(昭和三十五年三月卒)

市川(桑原)理恵子
中里(辻)恵子

昨年、還暦を迎えた私たちは、同期会で先生方をはじめ、懐かしい友と再会でき、一瞬空白の時を超え、学生に戻った時と思われる笑顔の中で喜び合いました。

これからの生き方などを話し合い、先生方からの激励のお言葉に勇気をいただきました。

私事ですが、孫の卒園の会に参加し、小さな子どもたちが堂々と「僕たちは、いつまでも友だちだね」とと心を一つに合唱しているの聞き、胸に熱いものを覚えました。その感動のなかで、私たちにもまだ何かできる事があると思い、「いつまでも私たち」を実現しようと考え、同期の方々とは混成合唱をしてみようと話しかけたところ、皆さん賛成してくださり、四月にスタートすることになりました。音大の音楽科を出て活躍されている井上輝子先生にお願い

し、月二回、発声練習から教えていただいております。

新しい事への挑戦は、厳しいとは思いますが、皆で協力して一つの歌を完成する喜びを信じ、目標に向けて楽しいひとときを過ごしております。

三十三年目の再会

(四四の会)

(昭和四十四年三月卒)

菱山 寛治

昭和四十四年に卒業し、早や三十三年。昨年十一月三日に、八王子ブラザホテルで五年ぶりの同期会を開



催いたしました。遠くはイタリア・函館・大阪・名古屋……と、時間を調整してくれた旧友は、八十五名と予想外に多くの参加者で盛り上がり、三時間の予定時刻もつかの間。恩師二名(担任)も出席いただき、どちらが生徒で先生か……。年月は「残酷」なものです。別れ、懐かしい旧友たちは、時間も忘れ二次会へと闇の中を移動し、いつしかシンデレラ・タイム近し。我に返るとともに再会を誓い帰路につきました。

同期会を開催したお陰で、住所録もだいぶ整理されました。しかしながら、連絡が着かない旧友も多く、残念に思っています。また、三年後を指し、更に多くの出席者で盛り上がるよう、住所録を整備しています。不明者の連絡先をご存知の方がありませんら、菱山までお知らせ下さい。Eアドレス CBL25017@nifty.com までお願いします。

編集後記

今年3月に228名の新会員が増えた。同窓会は、母校卒業と同時にそのまま会員になるのがこれまでの通例。しかし、昨年は、都の指導で、加入の同意が必要とされ、卒業生278名全員に確認をしたところ、50名が会員にならないと意思表示した。これも時代かなと思う反面、これまでの活動が在校生に認知されていなかったのかと慙愧の念に耐えない。これをバネに、新たなメンバーを加え、マンネリを打破し、創意と工夫と知恵を絞る覚悟である。

同窓会のカタリにご注意

名簿発刊直後の2月中旬から3月中旬にかけて、同窓会事務局の名を騙り、名簿を作成するため、氏名・住所・勤務先を調べているとの電話が一部の会員宅にありました。事務局で発信先を調査しましたが、不明でした。事務局から会員の皆さまにご協力をお願いする場合は、会報など文書でご案内しています。物品や金融商品、名刺広告などの斡旋は一切行っておりません。ご注意ください。また、こうした事例がありましたら、具体的な内容を事務局までお知らせください。